

◆行ってみたかった！図書館見学レポート◆

国立国会図書館東京本部を見学して

繁 定 繁 乃

外部の方も含め、30名で二手に分かれて約2時間見学させていただきました。初めに15分間DVDで説明を受け、館内を見学し、見学キットの中の足カバーを履いて書庫へ案内していただきました。パンフレットに国立国会図書館東京本館、関西館、国際子ども図書館の写真がありますが、東京本部と関西館の平面は広大ですが高さはあまりありません。しかし東京本部は地下8階、関西館は地下4階が書庫として建設されていて、地震の影響を受けないようになっていました。書庫担当の職員は一日働いて外界にふれることはありません。書庫の中央に光庭があり30m先の天空の窓から日光が差し込んでいます。これにより心を病む職員も減ったそうです。

今回の見学で、国立国会図書館法という法律で管理運営されていることも初めて知りました。またその中の納本制度により国内のあらゆる書籍・新聞等出版物が納本されなければいけないことも法律によるものだと初めて認識しました。以前、前任者から当院の年報を納本すると言われていましたが、あまり必要性を感じなく納本していませんでした。

SHIGESADA Shigeno

広島赤十字・原爆病院 図書館

TEL：082-241-3111(代) FAX：082-246-0676(総)

hi-tosyo@hiroshima-med.jrc.or.jp

た。しかし、未来に何かの研究に広島赤十字・原爆病院の年報が必要になるかもしれないので、時機を見て納本しようと思いを变えました。

毎日多くの出版物が搬入されていますが、その量に対応するために関西館の後方に関西館と同じ大きさの書庫を2館増築する予定だそうです。オンライン化が進んでいても冊子体は出版され続けるのでしょうか。いつかは無くなるのでしょうか。文字の著作物は遠い未来に無くなるかもしれません。絵画・彫刻などの芸術作品さえも製作段階からデジタル媒体になるのでしょうか。そしてプリントアウトは3Dコピー機を使用するのでしょうか？何とも味気ないことです。読者（閲覧者）には何も伝わりませんからこのようなことは起こらないと信じています。

しかし、書庫を地下に設置している事、書籍はほとんど閉架式にしている事、コピーも職員が行っている事等、ほかにもありますが、国立国会図書館とは日本の出版物は全てその形状を変えることなく国宝のように、大切に保管する場所なのだと確認しました。記録物で歴史が作られるというか、記録物こそ歴史の証人であると言えます。先だって当院の増改築グランドオープンが行われました。それに併せて記念誌を発行しましたが、初めての記念誌だったため土台が無く、すべて一から

の出発でした。院内に、特に図書室で保管されている記録物を基に何とか発行に漕ぎつけました。記録物が無かったら歴史は語れなかったこととなります。日本の歴史を形作っていると言っても過言ではない国立国会図書館の職務はとても重圧なものと言えます。たとえば搬入された書物のデジタル化も進んでいますが、本物を手にとって全身で感じたい利用者もいます。本の質感・色合いなど、スキャンしたものからは伝わらないその本そのもの。閲読申請書には研究目的・申請者の所属機関など詳しく記入する項目があり簡単には手にとれません。娯楽に供されるものではないという著作物に対する凛とした姿勢がうかがえます。このように徹底的に管理され、利用者にとってはいろいろ面倒な手続きもありますが、重責を担っている国立国会図書館の性質を考えると理解できるところです。

貴重な書籍をコピーするなんて無理だと思いますが、私たちが普段行っているコピー機

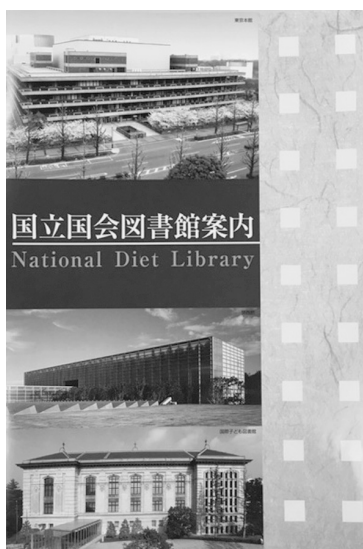
ではなく印刷面を上に向けてフワッとコピーできるコピー機があるそうです。その話を聞いたとき、爪先立てて全体重を製本雑誌に押しつけてコピーボタンを押すわが身が思い出されました。

今まで漠然と、「もともと国会議員が調査を依頼する図書館で、国民にも資料提供している日本でただ一つの国立図書館」という認識しかありませんでしたが、奥の深さを痛感しました。

国立国会図書館を見学して図書館の使命を想起しました。病院図書室という立場の違いはありますが、国立国会図書館が日本のエビデンスであるように、私たちはまず、医療情報のエビデンスであり病院のエビデンスであることを自覚していきたいと思いました。国立国会図書館の大沼様、緑川様お忙しい中、見学させていただき大変ありがとうございました。



見学キット



パンフレット



光庭